

非核平和友好都市宣言推進事業

令和6年度 広島平和記念式典

参加報告書



令和6年度中学生代表 原爆死没者慰霊碑及び原爆ドームを背に撮影

上越市

発行に当たって

上越市は、戦後 50 年の節目に当たる平成 7 年に非核平和友好都市を宣言し、豊かな自然と長い歴史に培われた美しい郷土を末永く守るため、核兵器を廃絶し、世界の恒久平和に向け、たゆみない努力を続けることを誓いました。

以来、この宣言の趣旨を普及・啓発するため、毎年 8 月 6 日に行われる広島平和記念式典への参加のほか、平和展の開催や戦争体験談集の発行など様々な事業に取り組んでいます。

令和 6 年度は市内中学校 22 校の代表生徒が、広島平和記念式典への参列、平和の集い及び上越市教育コラボ 2024 学び愛フェスタに参加し、派遣報告や平和の誓いを述べました。

この冊子は、広島平和記念式典に参加し、犠牲者に鎮魂の祈りを捧げ、平和の尊さを直に体験されたみなさんの現地での活動内容や感じたこと、伝えたいことなどまとめたものです。

本冊子が平和について考える一助となれば幸いです。

令和 6 年 12 月

上 越 市



目 次

事業の日程	1
活動レポート	
・ 事前説明会	2
・ 出発式	3
・ 袋町小学校平和資料館	
中 郷 中 学 校 3 年 高橋 陽介	4
板 倉 中 学 校 3 年 大内 舜也	5
・ 広島平和記念資料館	
頸 城 中 学 校 3 年 五十嵐聡叡	6
上越教育大学附属中学校 3 年 岩島 芽依	7
・ 平和記念公園	
城 東 中 学 校 3 年 古川 桜	8
城 北 中 学 校 3 年 市川 利空	9
・ 平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）	
城 西 中 学 校 3 年 丸山 晏凜	10
八 千 浦 中 学 校 3 年 宮川 虹大	11
・ 広島被爆者援護会主催「献花・献水慰霊式」	
雄 志 中 学 校 3 年 西條 理乃	12
直江津中等教育学校 3 年 斉藤 匡	13
・ おりづるタワー	
三 和 中 学 校 3 年 藤井 拓翼	14
・ 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）	
吉 川 中 学 校 3 年 中島穂乃花	15
柿 崎 中 学 校 3 年 長井 在希	16
・ 灯ろう流し	
潮 陵 中 学 校 3 年 古川 榎純	17
春 日 中 学 校 3 年 田辺ほのか	18
・ 原爆の子の像（献鶴）	
牧 中 学 校 3 年 飯田 奏夢	19
東 頸 中 学 校 3 年 長谷川 絆	20

・被爆遺構展示館		
清里中学校	2年 坂田 芽衣	21
・広島原爆死没者追悼平和祈念館		
名立中学校	3年 本多 健悟	22
・平和記念公園・旧燃料会館（レストハウス）		
大潟町中学校	3年 金沢 依真	23
・上越日豪協会主催「平和の集い」		
直江津中学校	3年 古川 鈴夏	24
直江津東中学校	3年 南雲 一華	25
・上越市教育コラボ 2024 学び愛フェスタ		26

非核平和友好都市宣言

事業の日程

【事前説明会】 7月27日（土）

時間 午後1時～4時

場所 高田図書館 高田城址公園オーレンプラザ

内容 自己紹介、事業説明、被爆体験伝承講話、平和展見学

【出発式】 8月5日（月）

時間 午前6時45分～6時55分

場所 上越妙高駅 もてなしドーム

内容 参加者紹介、教育長激励のあいさつ、折り鶴の付託及び誓いの言葉

【派遣日程】

8月5日（月）

- ・移動（上越妙高駅～広島駅）
- ・袋町小学校平和資料館
- ・広島平和記念資料館 見学
- ・平和記念公園 見学

8月6日（火）

- ・広島市原爆死没者慰霊式
見学並びに平和祈念式参列
- ・献花・献水慰霊式 参列
- ・呉市海事歴史科学館 見学
- ・海上自衛隊呉資料館 見学
- ・灯ろう流し

8月7日（水）

- ・原爆の子の像 献鶴
- ・被爆遺構展示館 見学
- ・広島原爆死没者追悼平和祈念館 見学
- ・平和記念公園・旧燃料会館（レストハウス） 見学
- ・移動（広島駅～上越妙高駅）
- ・解散

【上越日豪協会主催「平和の集い」】

8月11日（日・祝）

時間 午後5時～6時30分

場所 レインボーセンター 多目的ホール

内容 派遣報告、平和の誓い



【上越市教育コラボ 2024 学び愛フェスタ】

11月16日（土）

時間 午後1時30分～1時50分

場所 高田城址公園オーレンプラザ 特設ステージ

内容 派遣報告、平和の誓い



広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：事務局

場 所	高田図書館 第1、2会議室、高田城址公園オーレンプラザ スタジオ
訪 問 日	令和6年7月27日（土） 午後1時00分～4時00分
内 容	事前説明会 ・被爆体験伝承講話 ・事業説明 ・平和展の見学

広島平和記念式典中学生派遣事業事前説明会

(内容)

- 1 開会
- 2 スタッフ紹介
- 3 自己紹介
- 4 被爆体験伝承講話
- 5 感想の共有
- 6 日程説明
- 7 報告書等の作成
役割分担の説明
- 8 平和展見学



開会のときの様子です。

自己紹介等を通して
少しずつ笑顔が
見られました。



各中学校が作った折鶴です。



真剣に伊藤さんのお話を聞いていました。



平和展でも学習しました。

(様子)

参加の生徒たちは最初硬い表情で開会を迎えました。しかし、自己紹介をする中で少し笑顔が見られるなど徐々に和らいだ雰囲気の中で会が進みました。

被爆体験伝承講話では講師の伊藤さんのお話に真剣に耳を傾けていました。伊藤さんは挿絵を用いて説明をされましたが、その絵を見た生徒は「絵を見ただけでショックを受ける光景を実際に見て感じたことが本当にたくさんあったと思うし、それが家族だったら、私なら立ち直れないくらい辛いことだと思う。それを語り継ぐことはすごいことだ」と感想をもっていました。

感じたこと、伝えたいこと

生徒は被爆体験伝承講話を聴き、上記の感想のほかに「原爆に関する資料や講話を何度か見聞きしてきたが、そのたびに心を痛めるものがあります。だからこそ現地で多くのことを見て、知って、考えていきたいと思いました。」「原爆の被害の様子を知り、原爆の不必要さをどう伝えていくのか考えさせられました。」などの思いをもちました。これから1週間、事前に訪問先を調べ、広島に向かいます。広島での学習を通して、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、なぜ世界から戦争や紛争がなくならないのか、そして私たちは今、何ができるのかを考えていきたいと思います。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：事務局

場 所	上越妙高駅 もてなしドーム
訪問日	令和6年8月5日(月) 午前6時45分～6時55分
内 容	出発式 ・参加者紹介 ・教育長激励の挨拶 ・折り鶴の付託及び誓いの言葉

保護者、学校関係者の多くの皆様から見送りに来ていただきました。

早川教育長から「日本では第2次世界大戦を経験していない世代が国民の9割を占めるとされる。日本が唯一の被爆国。現地で戦争の厳しい現実や生の声をきちんと受け止め、戦争の悲惨さや平和の尊さをしっかりと伝えられるよう、五感を使いしっかりと学んでこよう」と激励の言葉をいただきました。

市内全中学校の生徒と平和展に訪れた方々が作成した折り鶴は、派遣者を代表して吉川中学校 中島穂乃花さんが早川教育長から受け取りました。

そして派遣生徒を代表して板倉中学校 大内舜也さんが誓いの言葉を述べました。



～平和の誓い～

今からちょうど79年前の8月6日午前8時15分に広島に原爆が投下され、およそ14万人もの人々の命を落としました。そんな悲劇から79年たった今でも世界で戦争がおきています。

戦争を知らない我々のような世代が、戦争を経験された方々の記録・記憶を継承すること、そして平和を願う心を育むことが大切だと考えています。

今回、私たち22人は各中学校の代表として、この広島平和記念式典派遣事業に参加します。

広島では、原爆・戦争が人々にもたらした悲劇の歴史や『平和』の大切さについて、知識を深め、今の『平和』を守っていくことの必要性などを地域・家族など周りの人々に伝えていけるように、しっかりと目や心に刻み、学んで来ようと思います。

令和6年8月5日 板倉中学校 大内 舜也

感じたこと、伝えたいこと

派遣生徒22名は緊張した面持ちで、出発式に臨んでいました。教育長の挨拶を受け、生徒の表情からは、現地でしか学べないことを1つでも多く知り、感じてこようという強い思いを感じました。平和の誓いを述べた大内さんは、戦争の悲惨さや平和の大切さについて理解を深めるとともに、学んだことを自分の周りの人に伝えていく、伝承者としての誓いも込められていました。上越市の皆さんが作った折り鶴の思いとともに、派遣生徒22名が広島に旅立ちました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：中郷中学校 3年 高橋 陽介

場 所	袋町小学校平和資料館
訪 問 日	令和 6 年 8 月 5 日（月）午後 2 時 45 分～3 時 15 分
事前に調べたこと	1873 年（明治 6 年）に開校した就将館は、幾度か改称され 1922 年（大正 11 年）に袋町尋常高等小学校となり、1937 年（昭和 12 年）に建設された鉄筋コンクリート造 3 階建ての校舎が新築されました。この小学校は爆心地から 460 メートルのところにあります。

原爆の被害

木造の校舎は倒壊し、全焼。唯一の鉄筋校舎は外郭のみを残し、焼失しました。左下の写真は袋町小学校の壁に自分の家族を探すため、至る所に「（人の名前）探してください。お願いします。」などの言葉がたくさん書かれていました。また壁に小さな地図を書き自分のいる位置を示してる絵もありました。字を見ると当時どれだけの思いで家族などを探していたのを感じ取ることができました。自分の名前が書かれていることを戦後に知って悲しむ人もいました。

右下の写真の人は、スイスの医学者マルセノ・ジュノー博士です。ジュノー博士は被爆者の悲惨な状況を知り、すぐに GHQ に交渉して約 15 トンの医薬品を入手して 9 月 8 日に広島に入り、被害の調査をしながら被爆者の治療にあたりました。その時に袋町国民学校西校舎の救護所にも立ち寄りしました。大量の医薬品の中には当時入手困難だった「ブドウ糖注射液」「サルファ剤付ガーゼ」などの貴重品が含まれていました。ジュノー博士により各救護所などに医薬品が配布され、たくさんの人々が治療を受けることができました。



（袋町小学校平和資料館展示資料）



（袋町小学校平和資料館展示資料）

感じたこと、伝えたいこと

袋町小学校は、原爆の被害をすごく受けたにも関わらず、救護所として使われていました。壁に描かれた文字からは、当時の人たちがとても慌てていたことが感じ取れました。当時のものを見ると決して他人事にはできなくなります。一度本物を見てください。皆さんの気持ちがとても動くと思います。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：板倉中学校 3年 大内 舜也

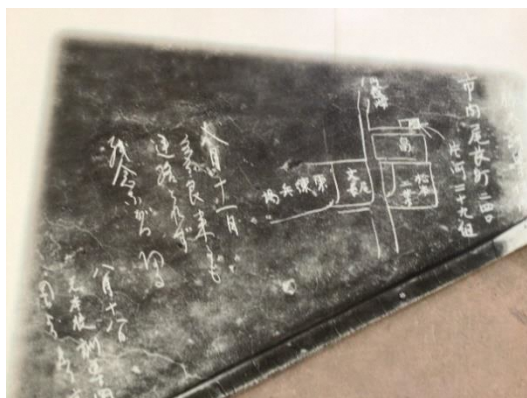
場 所	袋町小学校平和資料館
訪 問 日	令和6年8月5日（月）午後2時45分～3時15分
事前に調べたこと	1873年（明治6年）に開校した就将館は、幾度か改称され1922年（大正11年）に袋町尋常高等小学校となり、1937年（昭和12年）に建設された鉄筋コンクリート造3階建ての校舎が新築されました。8月6日の原爆により、爆心地から460mの位置にあった袋町国民学校は、木造校舎はすべて倒壊・全焼し、唯一の鉄筋校舎は外郭のみを残し、焼失しました。窓枠も吹き飛ばされたり、湾曲したりしました。 朝礼中だった教職員・児童ら約160人を直撃し、生き残ったのは数人だけでした。

袋町小学校平和資料館

袋町小学校は、老朽化などの理由で取り壊されましたが、当時の被爆した校舎の一部を保存し袋町小学校平和資料館となりました。私が印象に残っている資料は、被爆した校舎の壁にかかれていたという伝言や調査によって発見された当時の人々の文字です。

壁に描かれた伝言

被爆後、袋町小学校の西校舎は救護所として使われ多くの人々が来たそうです。その中で親が子の行方を探すためや、自分の行き先を親に伝えるための伝言が壁にたくさんかかれていました。資料館では一部しか見られませんが、親が自分の子の名前をかいてあったり、地図をかき自分の場所を伝えようとしていたり、当時の人々の必死な様子が伝わる資料でした。



（袋町小学校平和資料館展示資料）



（袋町小学校平和資料館展示資料）

地下室の奇跡

初めはすべての児童が一瞬にして命を落としたと考えられていましたが、「原爆被害全体像調査」の過程で生存者がいたことがわかり、その資料が『地下室の奇跡』という題名で紹介されていました。その内容は、たまたま西校舎の地下室にいた3人の児童の話でした。西校舎の地下室はコンクリート造りで、深さ3m、天井の厚さ20～30cmの地下室だったことから起きた奇跡だと紹介されていました。3人とも被爆する直前に偶然その地下室にいた、または近くにいたからこそ免れたという話でした。

感じたこと、伝えたいこと

私は79年前の原爆で1つの小学校で起こった歴史を初めて知りました。原爆ドームなどの大きな被害の歴史も大切ですが、袋町小学校のように私たちの知らない歴史もあるので戦争という悲惨な歴史から目を背けず、学び続けていきたいと思います。

そして私は地下室の奇跡に少し考えさせられました。この話を聞いた時初めは3人生き残ってよかったという安堵の気持ちでしたが、外に出たら街が地獄と化し、同級生・先生が命を落としてしまっている現実を3人はどのように受け止めたのかを考えてしまいました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：頸城中学校 3年 五十嵐 聡叡

場 所	広島平和記念資料館
訪 問 日	令和6年8月5日（月）午後3時30分～午後5時00分
事前に調べたこと	広島平和記念資料館は、原子爆弾による被害の真相を世界中の人々に伝え、広島心である核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与することを目的に1955年に開館しました。

広島街

1945年8月6日午前8時15分……「ドーン」という音と共に閃光のような光が走った広島は一瞬にして広島に住む人々の希望と夢を奪いました。家族と離れてしまった人、放射線の影響でただ苦しい毎を送らなければならない人など、原子爆弾の影響は一瞬にはおさまらず、その後も人々を苦しめました。

そしてその影響は今でも続いています。



（広島平和記念資料館展示 米軍/撮影）



（折免シゲ子/寄贈 広島平和記念資料館/所蔵）

一つのお弁当箱

広島平和記念資料館で被爆資料の一つのお弁当箱を見てきました。お弁当箱は原爆の影響で中身が炭化しており、原形がわからない状態でした。このお弁当箱の持ち主とご家族の方を思うととても切ないと感じました。原爆の被害を物や写真などから鮮明に知ることができ、当時の広島状況がはっきりと浮かんできました。

現在の広島

原爆が投下されてから79年経った今、現在の広島は緑豊かな自然を取り戻し、人で賑わっていました。あの日一瞬にして奪われた夢と希望は、今では世界平和への光となっています。奪われた自然や生活は広島の人々の努力によって復興され、現在では街並みの色を取り戻しています。

唯一の被爆国として平和な未来を担う私たちは今ある広島の姿を壊してはいけません。



感じたこと、伝えたいこと

今回の体験を通して、改めて戦争は繰り返してはならないと感じました。二度とこのようなことが繰り返されないためにも、まずは、私たちが戦争についての理解を深め、より多くのことを知ることが大切だと思います。「自分は戦争とは無関係」ではなく、唯一の被爆国である日本に生まれた者として原爆や今も世界各地で起こっている戦争について考えなければならぬと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

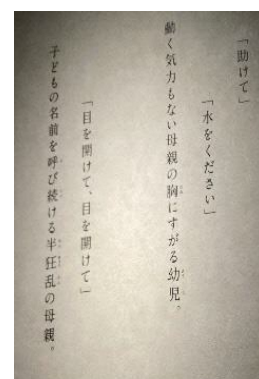
作成：上越教育大学附属中学校 3年 岩島 芽依

場 所	広島平和記念資料館
訪 問 日	令和6年8月5日(月) 午後3時30分～5時00分
事前に調べたこと	原子爆弾による被害を世界中の人に伝え、核兵器廃絶と世界平和の実現のためにつくられた施設です。 原子爆弾による被害を資料や写真、遺品などで展示しています。

＜水を求める人＞

私が資料館を見て特に記憶に残ったものが「水を求める人」でした。原爆投下後、被爆したたくさんの人々は水を求めて川に飛び込んだそうです。広島の前安川は当時、水面が見えないほど、人で埋め尽くされ、川からあがる力もなく、川から出ることができずに溺れてしまう状況だったそうです。その状況がどれだけ地獄のような景色だったのか。家族が被爆してなんとか会うことができたが、家族なのかどうか顔を見てもわからないほどのやけどを負って、それでも水を求めているのに飲ませていいのか。当時は水を飲ませてはいけないと軍の指示があったそうです。そのことを知り人々は様々な苦悩があったのではないかと思います。

「助けて」
「水をください」
動く気力もない母親の胸にすがる幼児。
「目を開けて、目を開けて」
子どもの名前を呼び続ける半狂乱の母親。



(広島平和記念資料館本館壁面展示・松重美人さんの手記)

＜破れた服、グニャグニャの自転車＞

資料館には原爆当時に被爆者の方が身につけていた服や自転車、弁当箱、広島の町にあったものなどが展示されていました。展示されていた服はボロボロに破れていて着ていた人の血が付いていたり、自転車や弁当箱などはグニャグニャに曲がり、とても使える状態ではありませんでした。しかし、服も自転車も弁当箱も、当時の人が日常で使っていて、毎日の暮らしていたのにも関わらず、いきなり原爆が落とされ、その「あたりまえ」の日常が奪われたことが分かりました。



写真①



写真②

写真①「服」 北林はつゑ/寄贈 広島平和記念資料館/所蔵

写真②「自転車」長岡省吾/寄贈 広島平和記念資料館/所蔵

＜原爆がもたらした被害＞

原爆は原爆が落とされた時だけが苦しかったのではないことを学びました。原爆を投下され、放射線の影響で病気になり、何年もその病気と戦っていたり、家族を原爆で失い自分だけが取り残されたり、または取り残されたのが子供だったり、本当に色々な人の日常が奪われたことが分かりました。

感じたこと、伝えたいこと

今回資料館を見学して思ったことは、学校での平和学習では体験できない、実際に行ってもどんな場所でもどのようなことがおきたのか、日本中、世界中の人がまだまだ知ることができていないと思いました。

資料館にはたくさんの国の方が来ていて、多くの方が学んでいました。多くの国の人が興味をもっているからこそ、日本に住む私たちは、唯一の被爆国として平和について自分の意見を持ち、学び考えるべきだと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：城東中学校 3年 古川 桜

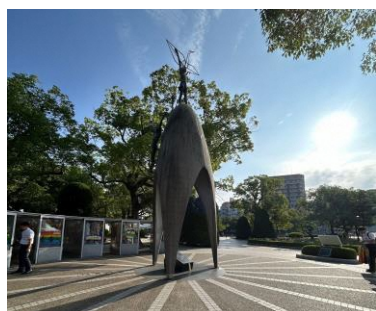
場 所	平和記念公園
訪 問 日	令和6年8月5日（月）午後5時00分～午後6時30分
事前に調べたこと	慰霊碑・記念碑をはじめとする平和の願いをこめた様々なモニュメントがあります。当時の様子をそのまま感じられる場所もあります。被爆した人たちはその当時どんな状況でどんな気持ちだったのかを学びたいと考えました。

【平和の灯火】



この灯火は昭和39年(1964年)8月1日に点灯されて以来ずっと燃え続けています。核兵器が地球上から無くなるまで、燃え続けるという非核への強い願いが込められていました。つまりこの灯火は早く消さなければならないということです。そのために世界各国の人々がお互いの国を尊重し合いお互いを信じ合うことで、世界から核は無くなっていくと思いました。

【原爆の子の像】



折り鶴は、被爆者である佐々木禎子さんが、放射線による後遺症に苦しみながらも回復を願っていた際に、千羽鶴がお見舞いに贈られ、折り鶴を折り続ければ願いが叶うという言い伝えを信じ折ったことが始まりでした。今もなお平和への願いを込めて毎年10万tもの鶴が寄せられています。

【原爆ドーム】



今から109年前に作られた広島県産業奨励館という名前の建物は、日々街の人で賑わっていました。しかし原爆投下により大勢の人が亡くなり、建物も骨組みが見えるほど壊れていました。最初に原爆ドームを見た時はとても衝撃的でした。その様子は核兵器の恐ろしさを物語っていました。

感じたこと、伝えたいこと

平和記念公園には、原爆が投下された当時の様子を知ることができ、平和への願いが感じられる場所がたくさんありました。原爆は私が思っていたよりもはるかに残酷で、これからの未来にあってはならないと強く思いました。私の周りには、国を守るためには戦争や核保持が必要と考えている人がいました。世界にもこう考えている人がいるかもしれませんし、実際、今核が世界から消えていないということはそういった考えを持っている人がいるからだと思います。しかしそれは絶対にダメなことだと伝えたいです。仮に国を守れたとしても、平和は絶対に訪れません。平和な世の中を築く方法は、戦争や核保持以外にもあると思います。平和を願う人は、沢山います。ですが、その中で行動に移せる人はどれくらいでしょうか。願うだけではなく、自分の周りを尊重したり、対立ごとが起こったら話し合いで解決したりするなど、他にもできることは沢山あると思います。今、日本は平和です。戦争や核については、知っているけれど自分ごとのように考えられている人は少ないでしょう。だからこそ原爆のことや今も続いている戦争について、自分ごとのように考えていくべきです。そうすればより多くの人が平和な世界を望むと思います。そのためにまずは被爆地である広島を訪れ、原爆当時のことを知ることが平和への第一歩だと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：城北中学校 3年 市川 利空

場 所	平和記念公園
訪 問 日	令和6年8月5日（月）午後5時00分～午後6時30分
事前に調べたこと	平和記念公園は原爆死没者の慰霊と世界平和を祈念して開設された都市公園です。

原爆ドーム

当時は産業奨励館として利用されていました。原爆の投下により、被爆した建物で、ほぼ当時の姿のまま立ち続けている建物です。頂上の円盤(えんばん)鉄骨の形から、いつしか市民から原爆ドームと呼ばれるようになりました。実際に原爆ドームを見てみて、日常生活からは想像できないような崩れ方をしていて、見ただけでも、当時の原爆の辛さや苦しさが伝わってきました。また、原爆の怖さも感じました。



原爆の子の像

2歳の時に被爆した佐々木貞子さんをきっかけに、被爆した子供たちの霊を慰めるために造られました。佐々木貞子さんは白血病の回復を願い多くの鶴を折りました。毎年、平和を願う思いとして、国内や世界各国から折鶴が原爆の子の像に捧げられています。私たちも学校で作った折り鶴を捧げてきました。



平和の灯

原爆ドーム、慰霊碑、広島平和記念資料館と同じように、平和の軸線上にあり、核兵器廃絶と世界恒久平和を願い灯されました。平和の灯の火はずっと燃え続けており、火が消えるのは世界から核兵器がなくなる時です。世界ではまだ核兵器が存在し、平和な世界が実現されていないことを改めて感じました。



感じたこと、伝えたいこと

広島には被爆体験証言者の方、その体験を語り継ぐ方と多くの方が、原爆の恐ろしさを知っているからこそ、核兵器廃絶を願い、平和を訴え続けていることがわかりました。近年は、被爆者の高齢化が進んでいるので、僕達が正しく思いを引き継ぎ、僕達が平和を訴えていきたいです。また、1日でも早く、平和の灯の火を消さなければいけないと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：城西中学校 3年 丸山 晏凜

場 所	平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）
訪 問 日	令和6年8月6日（火）午前8時00分～8時50分
事前に調べたこと	平和記念式典とは毎年8月6日に平和記念公園で開催される原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和の実現を記念する式典です。式典の中で広島市長によって行われる平和宣言は核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴えています。また、原爆が投下された8時15分に平和の鐘を鳴らし死没者に哀悼の意を表し1分間の黙祷を行っています。

8月6日午前8時から、平和記念公園で平和記念式典が行われました。今年で原爆投下から79年が経ちました。平和記念式典には被爆者や遺族代表をはじめ、109か国の大使を含むおよそ5万人が参加しました。



（広島市提供）

黙とう・平和の鐘

原子爆弾が投下された8時15分には、平和の鐘を鳴らして式典会場・家庭・職場・学校などで原爆死没者に哀悼の意を表し、合わせて恒久平和の実現を祈り1分間の黙とうを行ないました。

広島市長の平和宣言

広島市長が、平和宣言を行いました。核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴えるもので、世界に向けて発表されます。昨年度、広島平和記念資料館に世界中から過去最多の198万人が訪れたことを聞き、かつてないほど被爆地広島への関心と平和への意識が高まっていることを感じ、これからもたくさんの人が広島について知ってほしいと思いました。



（広島市提供）



（広島市提供）

こども代表 平和への誓い

広島市内の小学校6年生が、平和への誓いを述べました。中でも「願うだけでは平和はおとずれない」という言葉が一番印象に残りました。平和な世界を実現させたいと思うことや言うことだけでは無く、行動を起こすことが必要だと再認しました。一つ一つの言葉に心がこもっており、その想いや願いが今の広島を豊かにしていると思いました。

感じたこと、伝えたいこと

被爆体験証言者の話や各場所での資料を見て、想像を絶する恐怖を知りました。それと同時に今ある日常が平和で幸せなことだと感じ、私自身も核兵器を廃絶するために何か行動しなければいけないと強く思いました。戦争体験者は年々減り、私たちのように戦争を知らない人が増えていることが現状です。だから私は、被爆された方の思いを胸に、命の尊さや戦争の悲惨さを語りついでいきたいと思います。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：八千浦中学校 3年 宮川 虹大

場 所	平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）
訪 問 日	令和6年8月6日（火）午前8時00分～8時50分
事前に調べたこと	広島平和記念式典は、広島に原子爆弾が投下された日に亡くなってしまった人々の霊を集め、世界の永久の平和を祈願する式典です。

「平和記念式典プログラム」

- 8:00 開式・原爆死没者名簿奉納
- 8:03 式辞
- 8:08 献花
- 8:15 黙とう・平和の鐘
- 8:16 平和宣言
方鳩
- 8:24 平和への誓い
- 8:29 挨拶
- 8:46 ひろしま平和の歌
- 8:50 閉式



平和への誓い

僕が平和記念式典で特に印象に残ったのは平和記念式典に参加した色々な人のスピーチや平和への誓いです。私たちは被爆を経験していません。本当の意味で被爆の恐ろしさを知りません。しかし、被爆された方の経験や思いを知ることができます。そのことを知って、核兵器の完全廃止や平和について考えていかなければならないと思いました。僕はこの平和記念式典で多くの方のスピーチや平和への誓いを聞いて、一刻も早く平和の灯火が消えることを願いました。

平和の灯火：灯台座は、手を合わせ、手のひらを真上に広げたような形で表現されており、水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器の廃絶と世界恒久平和への願いが込められています。灯る火は、核兵器が廃絶されるまで燃え続けるという反核の願いの象徴となっています。



式典の参列者

平和記念式典に参加してみて、住んでいる場所に関係なく、たくさんの人がこの広島平和記念式典に参加してくれることを、自分の目で確かめることができました。これほど多くの国の人々が日本の式典に参加してくださっていて、平和を願う思いが一緒なんだと感じ、なんだか嬉しく思いました。これからも参列者が増え続けてほしいと感じました。

感じたこと、伝えたいこと

僕は平和記念式典に参列して色々な国の方々の平和への思いを感じることができました。また、この式典で僕も「平和」について深く考えることができたと思います。戦争は2度と起こしてはならないことだし、それを誓うための式典にこれからも沢山の国々が集まり平和を誓うことを願っています。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：雄志中学校 3年 西條 理乃

場 所	被爆者援護会主催「献花・献水慰霊式」
訪 問 日	令和6年8月6日（火）午前9時20分～10時40分
事前に調べたこと	献花・献水慰霊式は、被爆者援護会が主催して行っており、二度と同じ過ちを繰り返さないために行っています。これからの平和を願い、被爆された方の想いについて考えながら参加してきました。

【献花】

献花は、原子爆弾の被爆者の方々に哀悼の意を表し、世界の恒久平和を祈念する行為です。そして過去の辛い出来事を忘れず、戦争や核兵器の使用がなくなることを願って行われています。全国各地から献花が行われていました。



【献水】

献水は、熱線を浴びて、水を求めながら亡くなられた原爆犠牲者の方々のために水を添える行為です。一人一人が献水をして、平和の大切さや核兵器廃絶の想いがより高まりました。

【献鶴】

上越市の皆さんが作ってくれた折り鶴を献鶴しました。全国各地からも折り鶴が献鶴されており、本当に多くの方が平和を願っていると感じることができました。



感じたこと、伝えたいこと

この広島平和記念式典派遣事業を通して、原爆の恐ろしさ、被爆された方の苦しみをたくさん資料や現地を見て知ることができました。「もし自分や身の回りの人が」と置き換えて考えると、本当に苦しく、辛かったです。

もう二度とこの過ちが繰り返されることのないように、ただ単に「平和になってほしい」と思うだけでなく、広島で見たこと、聞いたことを家族や友達に伝えて、自分にできることを行動に移していきます。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：直江津中等教育学校 3年 斉藤 匡

場 所	被爆者援護会主催「献花・献水慰霊式」
訪 問 日	令和6年8月6日（火）午前9時20分～10時40分
事前に調べたこと	広島被爆者援護会によって開催されている。献水については、被爆者の方々の講話から考えるに、原爆によって全身に大火傷を負い水が欲しいと願うも、当時は大火傷をした人に水をあげると死んでしまうといわれていたために、水をもらえず亡くなってしまった方々への慰霊の意味が強いと考えられる。

献花・献水慰霊式

・献水の意味

広島被爆者援護会が主催するこの式典は、原爆ドーム前を流れる元安川のほとりで行われました。元安川は79年前の原爆投下によって、被爆し、重傷を負った多くの人々が、水を求めて川に入ったものの、原爆による重い火傷や怪我によって、衰弱していたために、そのまま溺れ、力尽きてしまった、そうした方々の遺体が満潮となった川で、流れずに川を埋め尽くし、まるで血の池、地獄のようであったと、当時救助に当たっていた方は語っていました。被爆した多くの人々が水を欲しながら亡くなっていったこと、また当時は大怪我をした人に水をあげると死んでしまうとして、救助に当たった多くの人々が、被爆した人に水を渡すのを躊躇い、その後長い間そのことを後悔していたこと、こうしたことを踏まえて献水が行われています。



・全国各地からの献花

献花・献水慰霊式は広島平和式典と比べると、とても小さな式典でしたが、全国各地から献花が行われていました。広島被爆者援護会は碑巡りのガイドを行っており、過去にガイドをした学校や個人からの献花が多いと感じました。碑巡りをする事で平和への関心が高められたと考えられ、真実を伝えること、継ぐことの大切さを感じました。実際私も原爆投下前の原爆ドームの写真の姿と、今の姿を現地見比べて、確かにそこにあった日常を感じ、胸が締め付けられました。



感じたこと、伝えたいこと

『核兵器は使えば核戦争で人類が滅びるから、保有国は使わない』

皆さんも一度はこのようなことを聞いたことがあるのではないのでしょうか？核保有国は脅しではなくとも言いますが、実際に使うことは無い。近年こうした楽観的な考えを持つ人が増えているように感じます。ですが、考えてみてください。79年前、広島に街に惨劇を生んだ兵器が、威力を増して今もこの地球上に存在していることを。このことを許して良いのでしょうか？使わないなら保有していることを容認、黙認しても良いのでしょうか？本当に保有国は核兵器を使わないのでしょうか？

平和記念式典の挨拶で国連事務総長アントニオ・グテーレス氏は「冷戦が核戦争にならずに終結したのはただの幸運であって、世界の多くの人々はそれが幸運であったことに気づいていない」と述べました。冷戦の終結はいくつもの幸運と奇跡が積み重ねられて実現したにすぎません。核戦争によって人類が滅亡するという最悪のシナリオは、冷戦期に威力も数も増大した核兵器によって現実になりうる可能性のあるものとなってしまいました。今回の派遣を通して私は核兵器は残酷な結末をもたらす兵器であり、長期間にわたって被爆者の体の健康、心の安寧を奪い続けるものであると学びました。

日本が最初で最後、ただ唯一の被爆国であり続けるために、私たちに何ができるのか。それは戦争の記憶が失われないように語り継いでいくことなのではないかと思います。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：三和中学校 3年 藤井 拓翼

場 所	おりづるタワー
訪 問 日	令和6年8月6日（火） 午前11時15分～12時10分
事前に調べたこと	2016年9月と最近オープンされた建物で、建物内はカフェや、ひろしまの丘と呼ばれる展望台、おりづる広場というおりづるを作ることができるなどがある。

あの日から100年後への想い

おりづるタワーは12階まであり、1階から12階までの階段の壁には9つの絵があります。その絵には、広島に原爆が投下された1945年から100年後、2045年の世界はこうなって欲しいという想いが込められているそうです。9人の有名なアーティストさんが其々100年後の世界に対する想いを個性的な絵で表現しています。

long jump・土井 紀子さん

影で広島の暗い過去を表現し、駆ける馬の姿は、そんな過去も抱えながら前に進んでいく“私たち”の姿を表現しています。紀子さんはこの作品に、一人一人が明るい眼差しで、2045年という遠くない未来について思いを馳せて欲しいと願いを込めています。



月面平和都市・毛利 まさみちさん

宇宙という場所は、国境など存在しなく隔たりなどない平等な場所。まさみちさんは100年後の世界もそんな姿になってほしいという想いで“平和”を宇宙というもので表現しました。



広島を見渡せる展望台

おりづるタワーの12階「ひろしまの丘」は広島を街を見渡すことのできる展望台です。原爆ドームのあまり見ることができない貴重な姿も上から見ることができます。



感じたこと、伝えたいこと

9つの絵では其々のアーティストさんが、個人の違いの尊重や、平和の姿というものを、動物や地球外の宇宙などで表現しているところがとても興味深いと思いました。絵を見た“私たち”にもこの絵を通して、平和への道を切り開くため、100年後への想いが実現するため、平和実現に向け考えて欲しいという想いが込められているそうです。

私はこのことを学び、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが、その小さなことが幾つと積み重なって、いつか平和実現への大きな成果になることを信じています。一人一人がこの原爆という悲惨なものを知り、周りに伝えること。そして、お互いの違いを受け入れないのではなく、尊重し合うこと。これが、平和実現に向けての私たちができることなのではないかと、この3日間で思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：吉川中学校 3年 中島 穂乃花

場 所	呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)
訪 問 日	令和6年8月6日(火) 午後2時10分～午後3時45分
事前に調べたこと	1階には戦艦大和などの模型が展示されています。 このミュージアムは呉市海事歴史科学館条例に基づき設置されており、明治以降の日本の近現代史の縮図ともいえる呉の歴史及びその近代化の礎となった各種の科学技術を紹介することにより住民が歴史への理解を深め、科学技術への興味と関心を高め、平和の大切さについて考えるとともに、学習の場及び住民交流の場を提供することにより地域の教育及び文化の向上並びに観光の振興に寄与することを目的とすると定められている。

大和とは

大日本帝国海軍が建造した大和型戦艦の1番艦。
史上最大の46センチ砲を搭載した超弩級戦艦です。そして最後の魚雷が命中してから沈没するまで10分にも満たなかったため、3332人の乗組員のうち3056人の尊い命が失われてしまいました。

全長26.3メートルもある
10分の1戦艦「大和」→



呉海軍工廠の砲熕・火工技術

大砲や機銃などの砲熕技術は、製鋼工場を有する呉海軍工廠砲熕部を拠点として研究、開発から製造までを一貫して行うことができたのは呉海軍工廠だけでした。

呉海軍工火工部では、戦艦用砲弾などの火薬、信管、火管の製造、炸薬の装填、発射薬の包装などが行われていました。特に呉海軍工廠においては、戦艦大和型46センチ主砲弾に代表される大口怪砲砲弾の火工技術について、研究、開発から製造までを一貫して行なっていました。

零式艦上戦闘機 →

零式艦上戦闘機の開発には、広海軍工廠で研究・開発された技術が活かされました。



※呉市海自歴史科学館(大和ミュージアム) 展示資料

感じたこと、伝えたいこと

飾られていたものはどれも迫力がありました。当時の事が詳しく書いてあり、戦争の悲惨さを実感することができました。混雑もなく、ゆったりとした施設であったので、ゆっくりと展示や解説を見たり、読んだりすることができました。しっかりと解説を読むことで、平和の大切さを学べるととても良い施設でした。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：柿崎中学校 3年 長井 在希

場 所	呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)
訪 問 日	令和6年8月6日(火) 午後2時10分～午後3時45分
事前に調べたこと	呉港に入るルートは4つの狭い海峡のみで、防備を固めやすいことから軍港に選ばれ、造船が盛んでした。軍港であったため空襲が激しかったそうです。呉空襲の被害や造船の技術当時の状況を調べてきます。

1 呉市と戦争

呉海軍工廠が設立され、呉のまちには日本一の技術を支える工員や水兵たちで賑わい、海軍拡張にともなう技術の進歩に加え、大戦景気によって、好景気にわきたちました。日本の軍縮をきっかけに質の高い造船技術の開発が進められ、同時にそれを支える人材育成もはかられました。呉海軍工廠の支部としておかれた広支廠が広海軍工廠として独立し、第11海軍航空廠となりました。

そして、太平洋戦争が始まると、日本の艦艇の建造・修理をになう呉海軍工廠の役割は、ますます大きなものとなり、やがて繁忙をきわめるようになっていきます。戦局の悪化とともに、食糧不足に悩まされるようになり、一般市民の生活は戦争一色となりました。日本最大の海軍工廠があった呉は、アメリカ軍の空襲の標的となり、14回にもおよぶ空襲を受け、うち6回は特に激しいものでした。

2 戦艦大和の詳細

戦艦大和の全長は 256.0 メートル、最大幅 38.9 メートル、満載排水量 72,809 t、公試排水量 69,100 t 水線長 256 メートル、基本排水量 64,000t、重油量 6,400t、軸馬力 153,553 馬力、航続最大距離 16 ノットで 7200 海里、公試最大速力 27.46 ノット。

史上最大の 46 センチ砲を搭載した超弩級戦艦でした。3332 人とされる乗組員のうち、276 人が生還し、3,056 人が死亡しました



1F 大和ひろばに全長 26.3 メートルもある 10 分の 1 戦艦「大和」があります。

感じたこと、伝えたいこと

まず僕が一番強く感じたことは、戦争は良くも悪くも今後の未来に影響するのだと思いました。戦艦大和は、その技術が今でも使われていることから、良い未来に影響した一つの例だと思いました。こうした技術はしっかりと受け継ぎながらも、戦艦大和の沈没で亡くなった 3056 人の事実もしっかりと受け止めたいと思います。戦争の過ちを繰り返さない気持ちと、平和の大切さについて、しっかりと伝えていきたいです。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：潮陵中学校 3年 古川 榎純

場 所	灯ろう流し(平和記念公園元安川)
訪 問 日	令和6年8月6日(火) 午後7時45分～午後8時15分
事前に調べたこと	昭和22年～23年ごろ、大切な人を失った遺族や市民が供養のため、手作りのとうろうを流すようになったのが始まりだといわれている。

○ 灯ろう流しの意味

「慰霊」と「ピースメッセージ」の二つの意味を持っています。原爆、戦災、一般死没者の霊を慰めるとともに、広く恒久平和を祈願し、全世界へメッセージを発信しています。



○ 参加者

元安川には、子供からお年寄りまで、外国の人もたくさん人がいて、川には本当にたくさんの灯ろうが流れていました。とうろうにはそれぞれの人の平和への想いが込められていて、その想いが元安川で苦しんでなくなった人に届いてほしいなと思いました。

○ 再生紙の使用

灯籠の一部には、原爆の子の像に手向けられた折り鶴の再生紙が使われています。他にも折り鶴再生紙は、卒業証書や名刺などにも使われています。

全国から集まった折り鶴を、こうして何かに生かすことで、平和への想いをつなげていくことは、とても良いことだと思いました。



感じたこと、伝えたいこと

たくさんの外国人の方も灯ろうを流しているのを見て、平和を願う気持ちは国籍、年齢関係なく、みんな同じなのだと思います。79年前に元安川に飛び込んだたくさんの人のように辛く、苦しい思いをする人がいない世界になってほしいと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：春日中学校 3年 田辺 ほのか

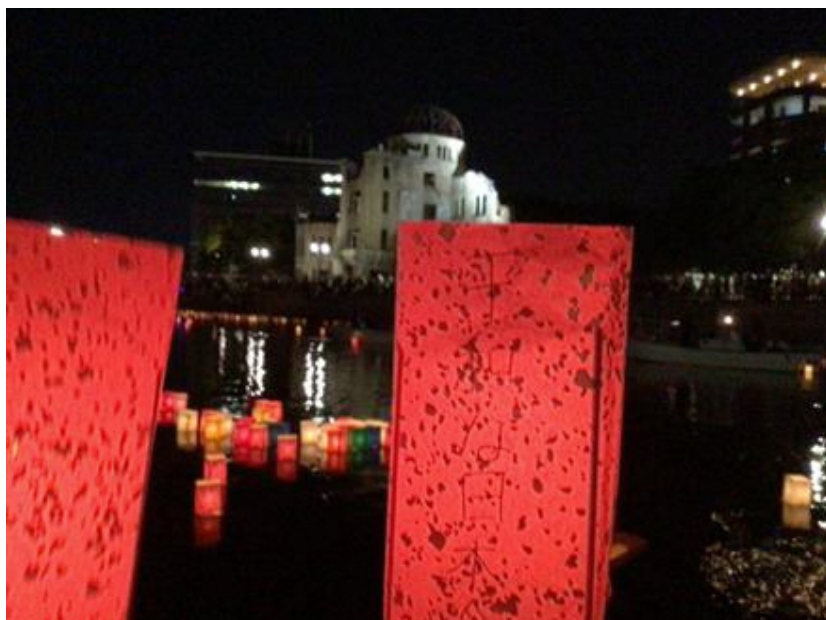
場 所	灯ろう流し(平和記念公園元安川)
訪 問 日	令和6年8月6日(火) 午後7時45分～午後8時15分
事前に調べたこと	第二次世界大戦後間もなく、原爆で親族や知人を失った遺族や仲間たちが「供養」と「復興」を願い、手作りの灯ろうを川に流したのが始まりと言われており、毎年8月6日に「灯ろう」が流されるようになりました。

1 灯籠流しの意味

灯ろうには、亡くなった方の名前と流した人の名前を書き込むのが一般的ですが、最近では国内外から来広された方々が「平和への思い」を書かれる光景も目立つようになりました。長い歴史を持つ「とうろう流し」は、「慰霊」と「ピースメッセージ」の両方の意味を持つようになったのです。

2 再生紙の利用

灯ろうに使用する紙の一部を、原爆の子の像の手に手向けられた「折り鶴」を再生した紙を使用しています。折り鶴の再生紙を使うことで、環境にも優しく、折り鶴に込められた平和への願いがとうろうにも込められると思います。



感じたこと、伝えたいこと

灯ろう流しに参加してみて、「平和」への思いは年齢など関係なく願い続けられていると感じました。被爆した人の中で、水を求めて元安川で亡くなってしまった方が多く、この場所で灯ろう流しを行い、改めて、今の私たちがどれだけ幸せなのか確認しました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：牧中学校 3年 飯田 奏夢

場 所	平和記念公園 原爆の子の像（献鶴）
訪 問 日	令和6年8月7日（水）7時50分～8時00分
事前に調べたこと	平和記念公園内に原爆の子の像はあり、佐々木禎子さんの幟町中学校の同級生による募金運動によって作られました。菊池一雄さんによって制作され、1958年5月5日に完成しました。

・折り鶴受け取り

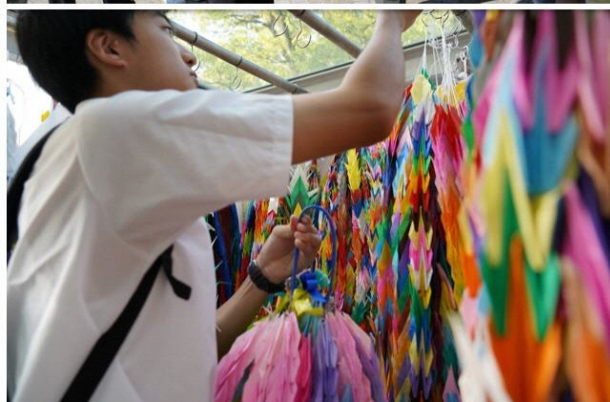
1日目の出発式で、上越市から折り鶴を受け取りました。自分の中で、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを全力で学び、感じてこようという気持ちがより強くなりました。

・原爆の子の像

像の足元には、「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」という石碑があります。私は鐘を鳴らした時に、この石碑を見て、この鐘の音が世界中に響いて、戦争のない日が早く訪れてほしいと思いました。

・黙とう・献鶴

原爆の子の像の前で黙とうをし、折り鶴を献呈しました。私は、『この折り鶴一羽一羽が世界を平和に導いてくれますように』という願いを込めて黙とうをし、折り鶴を献呈しました。



感じたこと、伝えたいこと

3日間広島を訪れて、平和記念式典での平和への誓いの「原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまった」という言葉が印象に残っています。普段の何気ない幸せな時間が、原爆一つによって失われてしまったことを考えると、とても恐ろしいし、切ないと思いました。毎日の何気ない幸せを当たり前と思うのではなく、感謝しないといけないと思ったし、そんな時間を大切にしていきたいと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：東頸中学校 3年 長谷川 絆

場 所	平和記念公園 原爆の子の像（献鶴）
訪 問 日	令和6年8月7日（水）7時50分～8時00分
事前に調べたこと	原爆の子の像は、原爆で亡くなった多くの子供達の霊を慰め、世界に平和を呼びかけるために建立されました。建立のきっかけは、佐々木貞子さんと、亡くなってから1年後の10月に像の設置が決まったそうです。 原爆の子の像には、国内外から折り鶴が届けられ、その数は年間一千万羽にのぼるそうです。

1 原爆の子の像の飾り

原爆の子の像には、意味が込められた飾りや碑文があります。一つ目は、正面に書いてある「v」の文字です。これは、犠牲者や犠牲という意味の「victim」の頭文字をとっています。次に、頂上や左右にある像です。頂上は佐々木禎子さんであり左右はそれぞれ少年と少女を表しています。最後に中央に置いてある碑文です。中央に置いてある碑文には、**「これはぼくらの叫びです**

これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」と書かれています。このように、この像には平和への祈りが込められています。



2. 折り鶴について

原爆の子の像の近くには献鶴台が置いてあります。献鶴台にはたくさんの鶴が平和のために全国から納められています。この鶴は毎年一千万羽献鶴されており、重さにして約10トンになります。そして、これらの折り鶴はリサイクルされ、再生紙として使用されています。



感じたこと、伝えたいこと

今回、この原爆の子の像に込められた意味を知り、この平和の像にはたくさんの人々の平和への願いが込められ、二度と戦争はしないというたくさんの人々の強い決意があることを感じました。また、原爆によってたくさん亡くなった子どもたちだけでなく、疎開によって生き延びたものの、親を失い、原爆孤児となった子どもたちもたくさんいたことを聞き、自分たちには想像することができない悲しみや、苦しみを味わった子ども達がたくさんいたということ、そして今「普通」に暮らしていることがどれだけ大切かということ伝えたいと思いました。これからも私たちが平和に暮らし、二度とこのような思いをする人がいなくなるために、世界から核兵器や戦争がなくなることを祈っていきます。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：清里中学校 2年 坂田 芽衣

場 所	被爆遺構展示館
訪 問 日	令和6年8月7日（水）8時30分～8時40分
事前に調べたこと	原子爆弾による被害の痕跡を展示している。 被爆した時の様子や、被爆前の街並みなどを展示している。



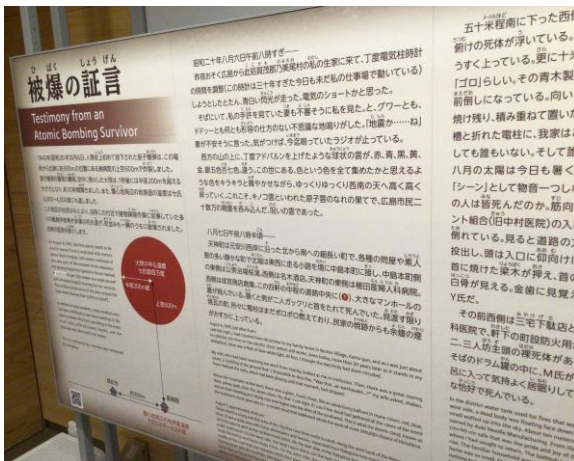
（被爆遺構展示館展示資料）

被爆による被害

左の写真は当時の民家を展示したものです。隣家との境界や、炭化した畳などが当時のまま保存されていました。これを見て当時確かに人が住んでいたことが分かりました。

また、当時は家が密集しており、とても賑わっていたそうです。一発で頑丈な家さえも跡形も無くしてしまう原子爆弾の威力は凄まじいものだと改めて感じました。

被爆の証言



（被爆遺構展示館展示資料）

左の写真は被爆者の男性による証言です。室内にいた男性は突然青白い閃光が走り、「グワー」「ドドッ」という地鳴りがしたそうです。西方をみると、赤青黒黄金銀などの様々な色のキノコ雲が登っていったと証言していました。男性はその雲を「呪いの雲」と表現していました。

外に行くと瓦や電柱が燃えており、首を垂れて亡くなっている人達や、ドラム缶の中で眠った様に亡くなっている知り合い、坊主頭の死体67人、さらには動物の死体まで転がっていたそうです。中にはまだ意識があり、ピクピク動いている人もいたそうです。私は罪のない人々の命を奪った原爆を一生忘れずに「語り継いでいきたい」と思いました。

感じたこと、伝えたいこと

被爆遺構展示館で私は、たった一つの原爆によって、多くの人の命が奪われたということを改めて強く感じる事ができました。被爆による被害を受けた民家を見て、原爆の威力の強さを痛感しました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：名立中学校 3年 本多 健悟

場 所	広島原爆死没者追悼平和祈念館
訪 問 日	令和6年8月7日（水）8時45分～9時30分
事前に調べたこと	国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し、恒久の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承することを目的として、設置された施設である。 (追悼平和祈念館ホームページより引用)

入口へ入ると、始めに原爆投下前の日本の情勢や原爆が投下された目的が道なりに記載されていました。そこには、日本の状況は非常に悪いが、そんな中でも戦争をやめなかったことなどが書かれていました。先に進んでいくと、広い空間へ出ました。周りは原爆投下後の原爆ドームを含む旧中島地区(現 広島平和記念公園周辺)の様子が写されていて、その中央には原爆による死没者を追悼するオブジェクトがありました。これは原爆が投下された8時15分を表しており、熱線を浴びた人々が水を求めていたことから、水を捧げられていました。さらに進むとスクリーンとタッチパネルがあり、そこでは原爆での死没者の名前を検索することができました。試しに苗字で検索をしましたが、1つの苗字でも、数えきれないような人が亡くなっていたため、それだけの人が犠牲になったのだと、改めて原爆の恐ろしさを実感しました。

またこの施設では、被爆時に志願兵だった少年兵の方々の話をスクリーンにて聞くことが出来ました。当事者の言葉はとても重く、文字や画像では伝わらないような内容ばかりでした。海外船への攻撃方法や被爆者の救援活動時の心情・出来事は教科書からは学ぶことができない内容で、かつての広島の悲惨さを物語っていました。その後は、被爆者の状況を写真や絵、文字で知ることができました。そこには、被爆後の避難所の様子や亡くなられた方々の遺品、救援活動の様子、熱線や放射線の被害を受けた方々を見ることができました。被爆後の広島の町は瓦礫の山となっており、爆心地から比較的離れていた地域でも身につけていた物は焼け焦げて中には変形している物もありました。

写真①左：弁当箱(レプリカ) 渡辺茂/寄贈 広島平和記念資料館/所蔵

写真①右：炭化したコーリャン(レプリカ) 道田政雄/寄贈 広島平和記念資料館/所蔵

写真② 「帽子の跡」 米軍/撮影 広島平和記念資料館/所蔵



写真①



写真②

感じたこと、伝えたいこと

広島を訪れ、日々の暮らしでは絶対に知ることのできないような内容の話を聞き、見る事ができました。被爆地である中島地区も始めは栄えており、それが一度の原爆投下によって瓦礫の山となってしまう、さらに多くの人々が亡くなり、放射線の後遺症が長くにわたって残っていたと思うと原爆廃絶の必要性をより考えさせられました。栄えていた頃の中島地区や被爆直後の広島、そして被爆から80年が経とうとしている現在の広島を一度に比較することができるからこそ、直接、広島へ行き、学習する意味があると思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：大潟町中学校 3年 金沢 依真

場 所	平和記念公園・旧燃料会館(レストハウス)
訪 問 日	令和 6 年 8 月 7 日(水) 9 時 40 分～10 時 00 分
事前に調べたこと	爆心地からの距離：170m 所在地：中区中島町 1 番 1 号 大正屋呉服店として建設。原爆によって屋根は大破、内部も破壊炎上し、地下室にいた 1 人をのぞいて全員が亡くなりました。戦後改修し、昭和 32 年（1957 年）には広島市東部復興事務所がおかれ、都市の復興の拠点として貢献しました。現在は平和記念公園レストハウスとして使用されています。

被爆前の中島地区

中島地区は川に囲まれており、物資の輸送の起点・商業の集積地となり、交通の要衝として栄えました。戦時下でも中島本通りには、モダンな文化を発信する店が並び、路地からは子供たちの遊び声が聞こえてくる町でした。そんな中島地区の戦争前後の様子を、模型や年表で紹介してありました。

被爆前の中島地区（平和記念公園）周辺の模型→



(広島平和記念公園レストハウス展示資料)

地下室

レストハウスの地下室には野村英三さんの被爆体験記を抜粋して紹介してありました。野村英三さん(当時 47 才)は、当時燃料会館に勤めていた人の中で唯一生き残った人です。野村さんの体験記を読むと原爆が投下したばかりの混乱や恐怖、信じられないような様子が伝わってきました。

また、当時、被爆した地下室は原爆による爆風のすさまじい衝撃を受け止めてなお、崩落することなく、その形態をとどめ続けています。2018 年に建物の安全上必要な補強をしましたが、地下室の柱、梁、天井及び床については、これまでの状態を保存してありました。



(広島平和記念公園レストハウス展示資料)

感じたこと、伝えたいこと

原爆によって、一瞬で、多くの命や日常が奪われました。そのことを一人ひとりが他人事ではなく自分事のように考えることで、戦争のない平和な世界に近づけるのではないかなと思いました。戦争を経験した人が少なくなっている今、私たちができることは戦争のことを正しく学んで伝えていくことだと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：直江津中学校 3年 古川 鈴夏

場 所	平和の集い レインボーセンター
訪 問 日	令和6年8月11日（日） 午後5時00分～午後6時30分
事前に調べたこと	戦後、直江津捕虜収容所で働いていた人の中から8人もの人が戦争犯罪人として訴えられ、処刑された。この集いは、太平洋戦争中、直江津捕虜収容所で死亡したオーストラリア人捕虜や戦後刑死した収容所職員を追悼する行事である。

私は、広島での3日間の活動を通して、「原爆の悲惨さ・恐ろしさ」を目の当たりにし、二度と同じ悲劇を繰り返してはいけなく強く思いました。

この平和の集いでは、広島平和記念式典中学生派遣事業で学んだことや感じたことを発表しました。私たち中学生の発表の他に、上越日豪協会代表の方やオーストラリア大使館の方のお話、小学生の平和を願うスピーチを聞きました。

私たちの発表が終わったときに、オーストラリア大使館の方が「よかったです」と言ってくださりました。



平和の集いの最後には、全員で「ウォルシング・マチルダ」というオーストラリアではとても有名な曲を平和の集いの参加者全員で歌い、佐渡おけさを踊りました。これには理由があり、戦後、戦争犯罪人として訴えられ、刑死した8人の直江津捕虜収容所職員の中に、佐渡おけさを歌いながら刑場に向かった方もいたことから、平和の集いでは佐渡おけさを踊るそうです。佐渡おけさを平和の集いで踊ることに、このような深い意味が込められていることはこれまで知らなかったもので、意味を知った上で踊ることができたことは、さらに深い学びにつながったと思います。

会場には、上越市の小学校で作られた灯籠が並んでいました。灯籠には、各々の平和に対する思いが絵や文字で表されていて綺麗でした。



また、平和の集いが終わってから、1人の女性が「韓国でも被害があったことについて話す人はあまりいないので、それに触れてくれて嬉しかったです」と話しかけてくださりました。私はこれを聞いて、私が学んできたことが皆さんにしっかりと伝わっていることを実感し、とても嬉しくなりました。

感じたこと、伝えたいこと

自分が平和について考えたことや感じたことを多くの人に「伝える」ことがとても大切な「平和への道」になると思いました。原爆や戦争、直江津捕虜収容所事件などのような悲惨な出来事を二度と繰り返さないために、また、そのような辛く、厳しい状況の中でも必死で私たちに命を繋いでくれた方々のために、全員で平和について考え、共有していきたいです。

そして、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナ・イスラエル戦争などが起きていて、今でも戦争・紛争が絶えません。日本のみならず、世界中が「平和」と言える日が来るように、願うだけでなく行動に移していきたいです。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：直江津東中学校 3年 南雲 一華

場 所	平和の集い レインボーセンター
訪 問 日	令和6年8月11日（日） 午後5時00分～6時30分
事前に調べたこと	直江津捕虜収容所ではオーストラリア兵 300 人を収容し、工場や炭鉱で働かせていた。その年の冬に強い寒波や飢えで 60 人が病死してしまった。 戦後収容所の警察員 8 名が BC 級戦犯として死刑判決を受け処刑された。

平和記念公園・展示館

オーストラリアのカウラというところで収容されていた日本兵捕虜の方達は、不自由のない生活を送っていました。しかし、日本兵は「戦陣訓」という教えで、捕虜になることは一族・郷土の恥であり、捕虜になるくらいなら死ぬべきだとされていました。この教えを果たそうと、昭和19年8月5日午前2時突撃ラッパが響き渡り、1,000 人近い日本人兵捕虜が突撃し、234 名が死亡、108 名が負傷し、オーストラリア兵 4 名の死者が出ました。
亡くなった日本人兵の中には偽名のまま亡くなり、永遠に肉親がわからない人もいます。



レインボーセンターでの平和の集いに参加して

オーストラリア大使館のお話や語り継ぐというものがありました。また、会場には地元の小学生達が作った灯籠が並べてありました。一つ一つに戦争への思いや願いが書かれてありました。式の最後には会場にいる全員でふるさとを歌ったり、佐渡おけさを踊ったりしました。
今回平和の集いに参加して、日本人職員 8 名が BC 級戦犯として処刑されたことも知りました。戦争は多くの悲しい出来事があります。日本も他の国に被害を加えたこともあります。被害を受けた側、被害を与えた側どちらの事実も知ることが大切だと改めて思いました。



感じたこと、伝えたいこと

直江津捕虜収容所で起きたことはもっと多くの人に詳しく知ってもらい、平和について考えて欲しいと思いました。そのために、家族や友達などに伝えていきたいと思います。また、加害側のこと、被害側のことを考えていきたいなと思いました。

広島平和記念式典中学生派遣事業 活動レポート

作成：事務局

場 所	高田城址公園オーレンプラザ 特設ステージ
訪問日	令和6年11月16日(土) 午後1時30分～1時50分
内 容	上越市教育コラボ2024 学び愛フェスタ 広島平和記念式典中学生派遣事業報告

広島平和記念式典中学生派遣事業報告会

(内容)

- 1 事業の説明
- 2 報告1 (8月5日 1日目)
- 3 報告2 (8月6日 2日目)
- 4 報告3 (8月7日 3日目)
- 5 平和への誓い

～平和の誓い～

「原爆はヒロシマの人たちのごく当たり前の生活を奪いました。原爆の恐ろしさ、悲惨さを広島を訪れ、多くの方の証言から、私たちは学ぶことができました。今年ノーベル平和賞に「日本原水爆被害者団体協議会」が選ばれました。受賞理由に「核兵器が二度と使われてはならないことを証言によって示してきた」とありました。しかし、戦後79年がたち、戦争の事実を証言される方も高齢になっています。戦争を知らない私たちがその証言を伝承していく必要があります。私たち日本が「最後の戦争被爆国」であり続けるために、二度と戦争を繰り返さないためにも、私たちが戦争の記憶・記録を学び続け、そして平和の大切さを継承していきます。そして、よりたくさんの人に平和について考え、戦争のことを覚えていてほしいです。

今世界で戦争が続いています。私たちは世界で起きている戦争や紛争にしっかりと目を向け、世界平和のために自分たちができることを考えていきます。「今ある平和をしっかりと噛み締め、大切にし、私たちが生きる未来のために平和を考え、伝え合い、認め合うことが平和につながる第一歩だと思います。」

令和6年11月16日

上越市立春日中学校 田辺ほのか
上越市立頸城中学校 五十嵐聡叡
上越市立大潟町中学校 金沢 依真



感じたこと、伝えたいこと

生徒は自らの目で見たこと、感じたこと、学んだことをスライドとともに、報告しました。今回の派遣事業を通して、報告した生徒は「学校の教科書にはのっていない戦争や原爆の恐ろしさや被害の大きさを学びました。」「核兵器」という人類の過ちを未来の世代に残してはならないとも感じました。」「私たちが平和に向けて何ができるかを考えることが大切だということを知りました。」と感想と上記にある平和への誓いを述べ、報告会を終えました。

非核平和友好都市宣言

私たちの上越市は、美しい自然のなかに歴史や文化の息づく、薰り高いまちです。この郷土を大切に守り、生きがいのある豊かな社会を築いていくことが、今の私たち市民に課せられた使命だと思います。

私たちは、これを根底からゆるがし、人類の平和と地球環境を脅かす核兵器の使用・実験は容認できません。世界唯一の被爆国の国民として、すべての国のあらゆる核兵器がすみやかに廃絶され、恒久平和が確立されることを強く願うものです。

そのためにも私たちは、この上越市から姉妹都市や国際交流の輪を広げ、世界の人々と友好のきずなを強めながら、互いの繁栄を図っていきます。

私たちの上越市は、戦後50年の節目にあたり、平和を求める決意を新たにし、ここに「非核平和友好都市」とすることを宣言します。

平成7年12月20日

上 越 市